



学校だより
ながや

令和2年度 第11号
令和3年 1月6日
横浜市立永谷小学校
校長 平野 好子

2021年が始まりました

校長 平野 好子

新しい年が明けました。2021年丑年です。

丑(牛)に関係するものとして、ある詩が思い出されました。115行におよぶ高村光太郎の詩です。ゆったりと力強く歩む優しくたくましい牛が表現されています。

「牛」 高村光太郎

牛はのろのろと歩く
牛は野でも山でも道でも川でも
自分の行きたいところへは
まっすぐに行く
牛はただでは飛ばない、ただでは躍らない
がちり、がちりと
牛は砂を掘り土を掘り石をはねとばし
やっぱり牛はのろのろと歩く
牛は急ぐことをしない
牛はカーぱいに地面を頼って行く
自分を載せている自然の力を信じきって行く
ひと足、ひと足、牛は自分の道を味わって行く
ふみ出す足は必然だ
上の空の事ではない
是でも非でも
出さないではいられない足を出す
牛だ
出したが最後
牛は後へはかえらない
足が地面にめり込んでもかえらない

そしてやっぱり牛はのろのろと歩く
牛はがむしゃらではない
けれどもかなりがむしゃらだ
邪魔なものは二本の角にひっかける
牛は非道をしない
牛はただ為(し)たい事をする
自然に為(し)たくなる事をする
牛は判断をしない
けれども牛は正直だ
牛は為(し)たくなって為(し)た事に後悔をしない
牛の為(し)た事は牛の自身を強くする
それでもやっぱり牛はのろのろと歩く
どこまでも歩く

自然を信じ切って
自然に身を任せて
がちり、がちりと自然につつまみ食い込んで
遅れても、先になっても
自分の道を自分で行く
(中略)
牛はのろのろと歩く
牛は大地をふみしめて歩く
牛は平凡な大地を歩く

(1913.12 高村光太郎作 「牛」 「高村光太郎詩集」より)

どう、進んでよいのか迷うコロナ禍です。しかし、この詩のように、がちり、がちりと自分の道を確認しながら、毎日、一步一步と大地をふみしめて歩まなければならないと感じています。我慢しなければならない苦痛の毎日と思わずに、これが当たり前のように思えるよう、毎日を通じていきたいと思います。学びを継続させるためにも、子どもたちとともに、さまざまなことに気づき、味わいながら、この詩に表現される牛のように、ゆっくりでも立ち止まっても、焦らず我慢強く一歩ずつ前に進んでいきたいと思っています。

今年も、保護者の皆様、地域の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。